

令和6(2024)年度ファシリテーションパワーアップ講座①実施報告

実施日：令和6(2024)年12月4日

◎ 当研修では、地域課題を地域の人々自ら主体的に解決できるよう、地域活動を志す方々の地域課題解決に向けた活動等につなげる学習プログラムを企画・進行する知識・技術の習得を図ります。第1回は、4名の方が御参加くださいました。

○ 協議「日頃の活動や課題について話し合おう」

最初に自己紹介をしてから、協議を行いました。ファシリテーションを行う際の課題や疑問点、困っていることやうまくいっていることなどについてラベルワークの手法を用いて話し合いました。協議の中で「受講者の反応をどのように引き出すか」「受講者同士を結びつけるためには」などの意見が出され、各自の課題がより明らかになりました。



○ 説明「参加型学習と学習プログラム」

総合教育センター職員

受講者が作成したプログラムのファシリテートをする際の参考となるよう、参加型学習の意義や学習プログラムの構成についての説明がありました。アイスブレイク⇒メインアクティビティ⇒ふりかえりという学習プログラムの流れや、その効果等について確認がありました。また学習プログラムの構成は、「起」「承」「転」「結」の流れに沿ったプログラムの組み立てが一般的であり、それぞれの場面で学習成果を生み出すためにどのような順序で展開していけばよいのか明示されました。

○ 講話・演習「ファシリテーションの効果高める手法」

宇都宮大学地域デザイン科学部 教授 石井 大一郎 氏

協議で明らかになった受講者からの課題を踏まえ、石井氏に講話を行いました。会議のテーマや話し合いの段階を意識しなければならないこと、ワークショップではいきなり議論せず個人で意見をもつ時間をしっかり取ることが大切であるなどの考えが示されました。また、石井氏がファシリテーションを行う際には、みんなに平等に話してもらうようにしていることや、間違っても聞いてもらえるという雰囲気づくりをしていること、参加者と同じ立場に立って寄り添うようにファシリテートしていることを話されました。受講者が今後活動していく上でのヒントが多くあった講話・演習となりました。



★ 受講者の声 ★

- ・他の受講者の方の現状や課題、対応策を伺えたことで、自分の行っている研修を見直すことができました。研修の目的を最初に伝えることなど、新たな学びを得ました。
- ・情熱のある皆様にお会いできたことが一番良かったです。私たちがやってきたことは、間違っていなかったと気付かせてくださいました。
- ・今まで以上に参加者ファーストを実行できる団体として活動していきたいです。
- ・改めて、ファシリテーションについて、学び考えることができました。先生のお話で、目が覚めた思いがしました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp